

令和2年度第2回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和2年度第2回青森県立郷土館協議会の概要について、お知らせします。

1 開催方法

書面開催

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会議資料を令和3年2月中旬に各委員に送付し意見等を取りまとめ）

2 案件

- (1) 令和2年度事業実施状況及び利用状況について
- (2) 令和3年度事業実施計画（案）について
- (3) 青森県立郷土館の博物館評価について
- (4) 耐震診断結果による臨時休館等について

3 委員からの主な意見

- 今年度の展示等について、新型コロナウイルス感染防止のため、また、建物の耐震診断結果による休館の中、変更・工夫しながらの展示開催など大変だったと思う。
- 出前授業について、利用した先生に感想を聞いたところ、「道具とくらしのうつりかわり」（小学3年）の授業を通して、「体育館で、普段できない体験をしながら学習できるのはうれしい。」「石臼で、きな粉を作りそのにおいを実際にかぐことができた体験は大きい。」「説明者が学校の先生でもあるので、学習指導要領に沿った説明はわかりやすい。」などの感想があった。
- 授業に役立つ博物館研修に初めて参加したが、教科や総合的な学習の時間に活用できることがたくさんあることがわかった。また、昔の道具を実際に見せてもらいながら質問等に答えてもらったことも勉強になった。
- 休館中のため、さみしいと思っている県民もたくさんいると思うので、館外で行う博物館活動の充実を楽しみにしている。
- 企画展「青森の風土と人 鎌田清衛写真展」について、郷土館だからこそ出来るいい企画で、青森駅あたりの様子が高齢者には懐かしく、若い人にはこんなに賑わっていたんだと驚きだったはず。アートの写真もいいが、こうした庶民の生活の写真もいい。個人的にはもっとたくさんの方に見ていただきたい展示だった。
- 「金魚美抄2020～金魚を描くアーティストたち～」について、拝見すると、結構来館者が多く、若い女性が多いように思った。内容も迫力と繊細さが同居していて興味が尽きず、会場の解説員の方の接遇もきちんとしていて素晴らしいと思った。

- 「青森県立郷土館サテライト考古展示室 with 奈良国立博物館収蔵資料」について、借用資料の浅鉢がすばらしく、あの模様の狂いのなさにもうびっくりで、いつまであの場所を離れたくなかったです。三内丸山遺跡応援隊のボランティアガイドも解説員もすごい土器に感嘆の声が上がり、里帰りした資料を遺跡に興味がある人たちに見てもらえて良かったし、博物館同士がこういう事業もしていることもわかった。
- 現在臨時休館中ですが、今はあちこちに郷土館の種を蒔く時で、そう考えると巡回展（仮称）はよい機会だと思う。
- 休館中のため、郷土館にある資料を少しでも館外で生かすことを期待する。
- 出前授業で使用する素材や教材の要望を調査し、教材開発等に役立てるとともに、HPに今までに学校に貸し出した物や出前授業の具体例などを掲載し、参考にしてもらってはどうか。
- 移動博物館について、HPにテーマが掲載されているが、それぞれの具体例もあればよりわかりやすく利用しやすくなると思う。
- キョドチャンネルはおもしろかった。ホームページでもっと広いスペースをとり、テーマも載せるとより興味を引くと思われる。
- 来館者アンケートの「郷土館や郷土館の催し物を何で知りましたか。」で、年齢、地域によって新聞、チラシ、ウェブ、ポスターの占める割合に特徴があることから、催し物の開催周知の際に工夫してみてもどうか。
- 再開後以降の郷土館をどのような博物館にしていくのかという、具体的な構想や長期計画を準備してほしい。また、休館中こそ、郷土館の存在を県内でアピールする最大のチャンスではないか。